

野坂昭如氏との邂逅

— 日本パイプから苦楽園口駅まで帰られて、そこから自宅に戻られる途中に、ニテコ池の防空壕によられたんですか。(正)

ニテコ池の防空壕のことは以前から知っていました。一つではなく二つだったと思います。土崩れを防ぐために5メートル以上間隔をおいていました。西側から東の方に向けて掘ってありました。(その二つの防空壕が)つながっているかどうかは確かめていないんですけれども、もしかしたら中でつながっていたのかもしれないですね。

そのうちの一つに、野坂昭如さんと小っちゃな女の子がおりましたですね。そこにいつから住み始めたのかは分かりませんが。

— 鯉が、浮いてくるからそれを採って食べたかどうかという話をされたのが、ちょうど空襲のあとの黒い雨が降ったときなんですね。(正)

ええ、それまでに野坂さんと、顔見知りというか、それ以前にも話を何度かしておりましたので。

— では、何度も会われていたんですか。(正)

ええ、しょっちゅうではないですけども。

西宮に空襲があった昭和20年8月6日に、空襲があった晩に黒い雨が降りましてね。翌日の朝いったら池の鯉がういていたんですね。それは、きっと動員について苦楽園口から帰ってきて、池の畔を友達と一緒に、三つあるうちの一番南の道を西から東へおりていく。それで満池谷のお墓へ行く角で友達と別れて、そこで私は右へ行くということが多かったんですけども、そのバス道に行くまでにその防空壕がある道のところを右折して南へ行くという道を通っておりました。

以前から防空壕の中に浮浪者が住んでいるということは分かっていたんです。それで、黒い雨が降って鯉が浮いたときには確実に話をしたんですけども。なぜ話しをしたかという、自分自身が大変おなかがすいている時代で、店にいても食べ物がおいていない。その頃は絵描きさんの喫茶店(パポーニ)ももう営業していなかったと思いますよ。昭和19年までは私もその絵描きさんの喫茶店にいていましたけれども。昭和20年にも(その喫茶店で)昆布茶を飲んだ覚えがあるんですけども、それはなんでいったのか。空襲が激しかったころではなかったと思います。

なぜ、野坂さんに鯉が浮いているぞということを言いに行ったかという、阪急苦楽園口から家に帰る途中で、三つあるうちのニテコ池の一番南の池をふと見ると、池の水面がぷかぷかしている。近づいてみたら鯉がえらい数がおったんですよ。まだ死んでいないやつもいて、空気をすったらまた池に潜っていくやつもいましたが、20匹以上はぷかぷかしていました。ああ、これだったら素人でもとれると思って。私とってみたんですけども、きっと野坂さんも自分と同じように捕られるんじゃないかと。実際煮炊きはしていましたからねえ。その浮いている鯉を煮炊きして食べたらいいタンパク源になるんじゃないかなあと思って。知らせてあげました。

自分はいったん家に帰ってまた鯉を捕りにいって、家に持ち帰ったら母親にしかられて。「アメリカ軍の毒が入っている。食べたら死んでしまうかもわからん。返してこい。」なんていわれてねえ。その時点ではすでに鯉は死んでましたからね。池に返しにはいかないで家の前の畑に不本意ながら埋めました。

野坂さんに言ったら、彼は取りにいきましたわ。毎朝彼、身体を洗いにいくんだそうですけれども、その時は浮いてなかったけどとか言われて。でも、喜んでました。ちょっと後日行ってあれどうやった？というところまでは確かめてないんですけれども。

池は彼はほとんど毎日のようにいっているんですよ。普段身体を洗いにいってましたんで。正岡先生のスライドで、三つある池の一番南の池の東のところに半分干上がって陸地になっていた、そこに穴を掘っていたんじゃないかと言われていましたけれども、それはそうじゃないんですよ。そこで姿を見ているのは、彼はやっぱり風呂がないから、そこへ行って朝か夕方かに身体を洗ったり、顔を洗ったり、あるいは背中をふいたりしたようです。ですから彼はそこへしょっちゅう行ってたんですけれども、まあ朝いったときは（鯉は）いなかったよと。よう知らしてくれたとあって、さっそく捕りにいったはずですよ。食料のない時代に、貴重なタンパク源がとれるわけですから。

大社小学校の高射砲

野坂さんには関係のない話なんですけれども。大社小学校の3階建ての校舎が陸屋根になってまして、そこに高射砲がありました。高射砲台と称しておりましたけれども、りっぱな高射砲ではなかったですねえ。高射砲部隊という部隊がおりました。やっぱりそれにね、めがけて爆弾が落ちてくる。そこでね、上におった兵隊の腕が飛んできてね。バス道の西側、今は住宅地に変わってしまったけれども、そこはずっと松林になっていたんですね。そのバス道のすぐそばの所に小学校から腕が飛んできてね。私の弟が発見して、それを弟が「こんな可哀想や」ゆうて家に持って帰ってね。しかし母親は「元の場所にもどしてこい。返しにいけ。返しに行け」ゆうて。弟と2人で元の場所にそおっとおいてきました。何人か戦死者は出たみたいですねえ。（落ちていた腕の服は）軍服だったんで、兵隊さんの腕だったと思いますよ。そんなこともありました。

— 大社小学校はそういう意味では、越水の山の上にあって見張り台としてはすごくいい場所ですよ。だから逆に飛行機からは狙われやすい。（正）

ええ。撃たなくていいのに撃つんですよ。そしたら敵もね、ちょっかい出されたらやり返さないでしょうがないでしょ。

おかげで私の家もその時は半壊。トイレや廊下等に爆弾の破片が何ヶ所も突き刺さってました。その家も平成7年の阪神淡路大震災で全壊し、今はありません。

清水孝一氏 略歴

- 昭和 4年 西宮市生まれ
- 昭和17年 旧制兵庫県立芦屋中学校入学（第3期）
- 昭和22年 同校卒業（5年制中学を卒業）
- 昭和26年 旧制官立京都繊維専門学校卒業
（現 京都工芸繊維大学）
- 昭和26年 鐘淵紡績株式会社入社
- 昭和61年 大日本蚕糸会より蚕糸功劳賞受賞